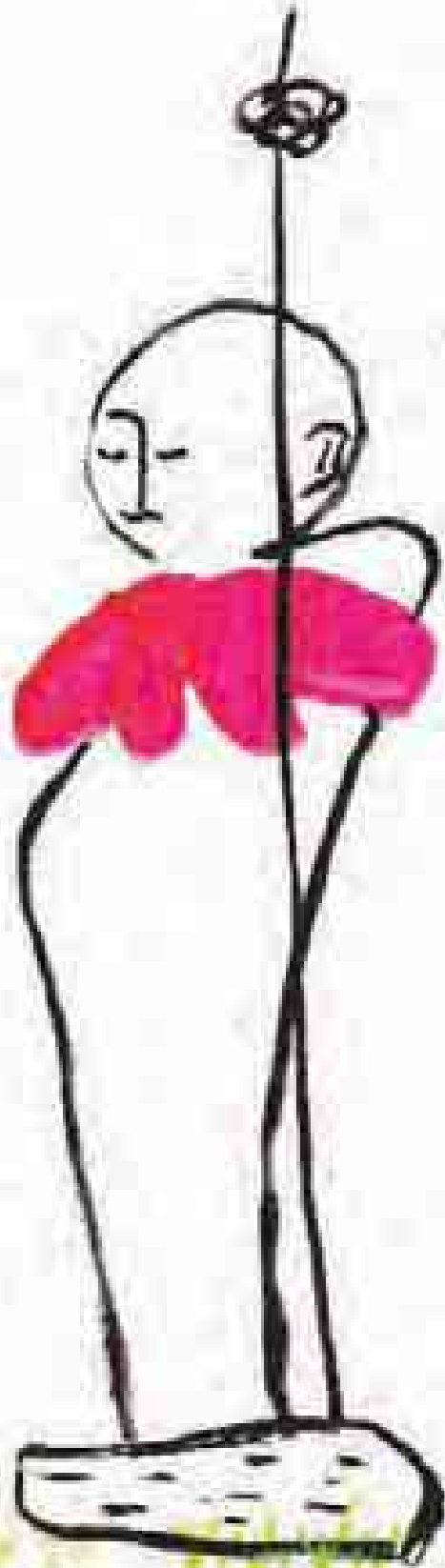


米子加茂川地蔵めぐり ガイドマップ

加茂川めぐり実行委員会



今日も米子



江戸時代から残る
米子城跡・地蔵（盆）・小路・町家・町並みは米子の宝です。



- | | | |
|--------------------|-------------------------|----------------------|
| 1 ひょうたん小路地藏 | 11 出現地藏 | 20 橋番地藏 |
| 2 延命院地藏
(糀町橋地藏) | 12 川守り地藏 | 21 青石地藏 |
| 3 榎地藏 | 13 与太郎地藏 | 22 心光寺地藏 |
| 4 子安地藏
(糀町橋西地藏) | 14 立町1・2地藏
(8月23日のみ) | 23 法蔵寺地藏
(みそなめ地藏) |
| 5 法勝寺町橋地藏 | 15 延命地藏 | 24 寺町地藏 |
| 6 土橋地藏 | 16 つなぎ地藏 | 25 塩町地藏 |
| 7 瑜伽堂地藏 | 17 天神橋地藏 | 26 城山大師地藏 |
| 8 善光院橋地藏 | 18 中ノ棚橋地藏 | 27 清洞寺岩地藏 |
| 9 藪根橋地藏 | 19 塚と橋地藏 | 28 みなと地藏 |
| 10 咲い地藏 | 29 橋守り地藏 | 29 30 31 六地藏 |

加茂川地蔵紹介 (加茂川まつりスタンプラリー対象地蔵1~21)

①ひょうたん小路地蔵 (道笑町2丁目地蔵) 道笑町二丁目 (観音地蔵堂) 子安祈願



元町サンロードの松浦計量機店を起点とするひょうたん小路を東に進む、新出雲街道（作州街道）沿いにある。樵濯集（著者東町の栗木尚謙）によれば米子地蔵三十六番札所は、安永（1772年～1780年）の初めころ、浪速の宮大工彦祖が定め、瓦葺の祠堂とご詠歌をつくったと記されており、道笑町の観音地蔵堂は、この頃に建立され、今でも瓦葺の面影が残され米子では唯一の貴重な存在となっている。お堂の中には、地蔵菩薩、観世音菩薩、弘法大師が祀られ、深く信仰されている。8月23日の地蔵盆の宵祭りの翌日には、この地蔵堂で、道笑町二丁目の子供会により「百万遍」の念仏が行われてる。特製の長い大数珠（約5メートル）をまわし、百万遍の念仏（なんまいだ。なんまいだ）を唱えながら子供たちの悪疫退散と安泰をお祈りするという、昔ながらの貴重な風習が残されている。

②延命院地蔵 (糺町1丁目地蔵、糺町橋地蔵) 糺町二丁目 延命祈願



三体の地蔵尊が安置されてる。中央は、硬質の黒凝灰岩で、加茂川地蔵尊の中でも屈指の石仏で気品の高い表情に満ち溢れています。江戸時代後期には、益尾氏による綿実油、びんつけ油の製造もこのあたりで行われていた。かつて、この祠堂の（地蔵から見て）左前には、「えんめさん」と呼ばれる修験山伏寺院の延命院があった。延命院は、かつて中村一忠の帰依を受け、内町に創建されたが、改易後、糺町に移されたという。「村瀬家物語」によれば、延命院の東南に村瀬家の別荘があった。

えのき
③ 榎地蔵 (梅檀の木地蔵) (糺町2の東地蔵) 糺町二丁目東 光明祈願



この場所は、昔「いとば」と呼ばれる荷揚場であった。
 榎地蔵の名前は、地蔵堂の裏あたりに榎の巨木があったことに因む。
 地蔵は二体祀られているが、向かって左側の地蔵（小さい方）は、今井さんの先々代
 が川底から引き上げたお地蔵様で、大通りが敷設されたときに壊された小橋の袂に祀
 られていたもので、頭部が欠損して、コンクリでつくられた頭が乗っている。

④ 子安地蔵 (糺町2の西地蔵、糺町橋西地蔵) 糺町二丁目西 仲良し祈願等



「いとば」の石段を上ったところに、ある。建立は、昭和31年8月
 当時、二丁目の子供（幼稚園児）が山陰本線の加茂川鉄橋の列車事故で幼い命を失われ、同じころ、町内の5、6歳の幼児が海で遊泳中水死するという事故が続いた。子供会の役員であった岩坂さん、清水さん、加納さんたちの尽力により、地蔵堂の建立が発案され、二人の幼児の鎮魂の意味から、二体の地蔵さまが一石に彫られた地蔵尊を安置した。一石二体の地蔵尊は、「和合地蔵」で夫婦円満、安産、家内平穏などにご利益がある地蔵とされているが、岩坂さんたちは、二人の幼子の供養の意味から敢えて一石二体の地蔵尊を求められ「子安地蔵尊」と命名された。

⑤ 法勝寺町橋地蔵 (法勝寺町地蔵) 法勝寺町 開眼祈願



祠堂には、二体の地蔵尊が安置されているが、一体は、黒みがかった御影石の自然石でもう一体は、坐像の地蔵尊であるが、由緒を知る人はいない。
「ふるさとの加茂の川辺の川やなぎ、真(ま)さをに萌えむ 朝餉(あさげ) 恋しも」
西田税(みつぎ)の句碑がある。

⑥ 土橋地蔵 (土橋の地蔵) 法勝寺町 橋渡し祈願



二体の石仏が安置されている。一体は円形の自然石で、もう一体は、角形の地蔵尊で、舟形光背を背にした気品の高い姿の地蔵尊である。この横には以前井戸があり「地蔵井戸」と呼ばれていた。このあたりの加茂川は蛍の名所でもあり、加茂川では蛍の飛び交う光景は、米子の夏の風物詩であった。
土橋のある小路は、江戸時代、城下と西福原村道(津出し道)をつなぐ重要な小路で寺小路といわれていた。

⑦ 瑜伽堂地蔵 (瑜伽堂橋地蔵、ゆがさん) 紺屋町 (瑜伽堂) 空き巣除け祈願



昔から「ゆが社」とか「ゆが院」と呼ばれ、米子の近在の人々の信仰を集めていた。地元の人は「ゆがさん」と呼んでおり、本尊は、薬師如来と阿弥陀如来で文化年間（1804～1818）、紺屋町から代表で金毘羅詣でに広瀬屋と安来屋がでかけ、道中の途中にある備前児島の瑜伽大権現を勧請し、神木で薬師如来像と阿弥陀如来像を刻して祀り、真言密教の祈祷で繁盛したと「米子市史」に書かれている。御堂には、遷宮文化3年（1806）の棟札がある。終戦間際の建物強制疎開により、近辺に祀られていた地蔵尊、不動明王、弘法大師、稻荷を集めてこの瑜伽堂の境内に安置されたといわれている。

⑧ 善光院橋地蔵 (善光院地蔵、四日市町の地蔵) 四日市町 善行祈願



この辺りに、京都の醍醐三宝院に属する修験衆当山派（真言修験）の善光院があったことに因む。今は駐車場になっているが、以前は、日本の生協の草分けとして知られた「西部生協」の位置にあった。字名を『墓田』という。

善光院は、開基乗円法印によって承応年間（1652～1655）に開創され、東西22間（3.1m）、南北1.5間（2.7m）の規模であった。江戸時代は、鳥取藩主池田氏の崇拜を受け、因伯二州に広く布教されたが、明治維新の神仏分離により、明治5年（1872）に廃された。

⑨**藪根橋地蔵**（土手住田の地蔵、子育て地蔵） 東倉吉町、笑い会

藪根地蔵（子育て地蔵）は、元は土手住田の地蔵であったが、昭和24年頃の外堀の埋め立てに伴い、藪根橋の袂に祀られた。その後、昭和17年後、地元の人たちにより新しく作り変えられ、山口さんがお世話をされていた。その後、土井さんの建物改修工事に伴い、覚証院橋のたもとに移された。

⑩**咲い地蔵** 東倉吉町、笑い会 笑い人生祈願

咲い地蔵は、原徳チェーン（足立順太郎社長が発願し、咲い地蔵建立期成会（岩崎實義会長）が誘致を行い昭和59年（1984）11月23日午前11時より除幕式と開眼供養が行われた。咲い地蔵は安来市の石彫家清水洋一氏が制作。2トンの御影石を使い高さ1m 65cm。その他に、藪根地蔵、新設された水かけ地蔵も安置された。また傍らには、仏教詩人の坂村真民の筆による黒御影石に「念ずれば花ひらく」の歌碑も建立されている。

番外**覚証院橋の地蔵**（ハシバさん） 東倉吉町、笑い会



⑪出現地蔵 西倉吉町(笑い庵)、笑い会 立て直し祈願



昭和4年、木下徳子(明治25年生まれ)は、昭和7年9月中ごろの夜、加茂川に面した二階の居間で眠りから覚めた。観世音菩薩が金色燦然と輝く衣をかすかに震われ空中を歩み寄ると、「よく聞

けよ。お前は地中にある仏様を現し参らせねばならぬぞ、地中の仏」。かすかに姿を揺り動かし口に微笑をたたえて静かに消えていった。

昭和10年3月31日、昼前から朝日町の覚証院橋の周囲は黒山の人だかりができていた(地蔵堂に当時の写真が飾られている)。次男の正夫が米子中学の投手として春の甲子園大会に出場し、父親(徳子の夫)が応援に出かけている隙に、市役所の協力により井戸を掘り下げたところ高さ45cmで夢論しのとおり、合唱した姿で頭部のかけた石仏が出てきた。

平成11年、かつての木下徳子宅(木下薬局)は住田斎三郎氏を中心とする笑い通り協議会の事業として笑い庵として生まれ変わったが、建物の傾きがひどく修理費用の捻出がままならず閉鎖の危機に追い込まれていたところ、平成12年の西部地震で建物が「しゃんとした」という奇跡が起こった。また、その後、建物の所有者が、建物を売却処分する意向であることがわかったが、資金がなく、事業を断念しかけたところ、支援者が現れ建物を取得し提供するという奇跡が再び起こった。

⑫川守り地蔵(曲りの地蔵) 西倉吉町、笑い会 児護祈願



かつては洪水のたびに鉄砲水が人家を押し流し、濁流が坂口邸の石垣にぶつかり川底をえぐって深さは3mとも5mとも言われ、川底の深さと傍の電柱と同じ高さと言われた。その角の深みは子供が幾人も溺れて命を落とすなどした場所であった。

祠堂は加茂川筋でも屈指の祠堂であり、開き戸は格子造りで、安政年間

(1772~1781)大工頭の彦祖が加茂川で水死した子供の菩提を弔って36地蔵を立てたといわれているが、そのうちのひとつではないかと云われている。

上方の宮大工彦祖は、出雲国の日御碕神社の造営に下り、その帰途米子に逗留中に子を成して定住して、多くの弟子を育成している。彦祖は、加茂川で水死した幼児の菩提を弔うため「米子36地蔵」といわれる地蔵堂を建立している。今は、祠堂に棟札が一枚残されており、「川守地蔵堂、嘉永4年(1851)本願主鹿島佐左衛門、寛恵」と書かれている。現在の祠堂は、昭和57年に造営されている。

祠堂には、四体の石仏が安置されており、中央の地蔵菩薩像は座高55センチで請花の台座に坐しており両手で宝珠を奉持している。加茂川地蔵の中にあって美術的にも価値ある石仏のひとつである。向かって左側には高さ50cmの弘法大師像。また、左右の両端には、幼児の墓石が置かれている。

川に落ちた子供たちが、不思議にここに浮かんで生き返ったと伝えられる。

⑬立町1、2地蔵 (与太郎地蔵) 立町1、2丁目 新転祈願



普段は、立町一丁目の飛田材木店前の四つ角に鎮座している与太郎地蔵で、8月23日の加茂川まつり・地蔵盆の際に、立町の遊園地に移り祭りが執り行われている。石仏の正面に

「正徳元年卯五月二十八日松永与太郎」と刻まれている。昭和9年9月の台大風水害の折り、松本家の前の川に流れてきたのを近所の老人が引き上げて祀ったのが始まりと伝えられている。

⑭延命地蔵 岩倉町 (涼善寺) 長寿祈願



涼善寺は、隣の本教寺と共に、かつては城山に開創されたと云われ、米子城を建てる際に賀茂神社、本教寺と共に現在地に移されたと云われている。

かつては山門の右に、間口三間半、奥行三間

の「千躰地蔵堂」があり、天保年間～慶応年間まで、毎年七、八十躰の地蔵が奉納され、いずれも亡き幼児を供養する戒名が、朱文字で、金字で、あるいは彫り込まれている。その範囲は宗派を問わず、遠くは日野郡、島根半島にまで及び、現在も約七百五十躰が残されている（現在は円光大師堂に安置されている）。

平成27年、本堂の改築に伴い、延命地蔵・子育て地蔵・六地蔵が新たに建立された。

⑮つなぎ地蔵 尾高町 (下町館かどや) 良縁祈願



米子まちなか観光案内所一号館の下町館かどやの前に鎮座している。地蔵は、涼善寺が寄贈したもので、地蔵の制作は安来市の石彫刻家清水洋一氏の手によるもの。地蔵の傍らには仏教詩人坂村真民氏の

の歌碑も置かれている。

かどやは、地域交流の拠点としてまた観光客向けの物産館や休憩所として、かどやを構想し、売りに出ていた町家（小泉履物店）を先代の長田吉太郎氏が買い取り、平成20年にオープンさせたもので、地元出身の運営されている。店長の門脇静枝さんが、境港産の干物や焼き芋、特産品などを販売しておられ、観光客だけでなく地元のファンも多い。

①6 天神橋地蔵 天神町一丁目 学業成就祈願



天神町の内田正治さんの家のお地蔵さんだったそうで、今は天神橋より少し離れた場所に新しく作り変えて祀ってある。この付近には、かつて天満宮と稲荷社が並んでいたが、昭和37年に賀茂神社に合祀された。

天満宮は、元は郭内にあったが、元禄5年(1692)荒尾氏により片原町(安政4年(1857年に天神町に改称))に移された。祭神は菅原道真を祀る学問の神様。

稲荷社は、当初、中村氏が上松に勧請し稲荷大明神といていた。現在も故地に元稲荷が鎮座している。

①7 中ノ棚橋地蔵 (中ノ棚地蔵、なかたなの橋番さん) 天神町二丁目 商売繁盛祈願



中ノ棚にはかつて井戸があり、その際にはお地蔵様が祀られていたといわれるが、今は自然石の石碑が建てられている。自然石であるが、表面にかすかに刻字がされている。一説によれば地蔵尊は、船越氏の屋敷内に祀られていたとも言われている。表面の文字は梵字のようでもあり、聴くところによれば往古、行脚の尼僧がこの辺りで行き倒れ、それを葬った供養塔であるといわれる。

お地蔵さんは橋の守護神として大切に祀られている。戦時の強制疎開のあるまでは、近くの和多寛明さんのところの納屋をつかって地蔵祭りをにぎやかにしたという。いまは町内の人みんな協力して花を供えたり掃除をしている。

⑱塚と橋地蔵 (塚と橋番地蔵、五十人町の地蔵) 天神町二丁目 円満祈願



旧京橋の擬宝珠付の欄干が遊園地の入口に並べられている。広場の中央に「五十人町の地蔵さん」が祀られている。天神町の裏町から昭和55年頃、医大のグラウンド拡張のため、ここに引っ越しされた地蔵さん。中ノ棚橋と京橋の中間点、加茂川の西岸にある。

地蔵の縁起はわからないが、明治の頃には錦公園への畔にあったと記憶をたどる人もいる。いまは天神町の子供会が中ノ棚橋地蔵さんと一緒に地蔵祭りをする。

⑲橋守り地蔵 (京橋地蔵、酒飲み地蔵) 内町 交通安全祈願



米子湊に入港した北前船や千石船は、瀬崎船着場で舳に移し変えられ上流の商家に運ばれた。これらの運営には、永野屋、木屋、島屋、らの船の業者があたった。永野屋は、京橋の番所の管理にも当たり、「橋守」として代々があたり、京橋の地蔵の管理も務め現在も、末裔である永野氏が個人で祭祀されている。

江戸時代、死罪になるものが、ここで末期の酒を飲んだという。勝田の処刑場への最初の入口だったからか。近くの人々が酒を持ち出して飲ましたという。また、武三という男の子が親の仇をうとうとして反対に殺されてしまい、あまりにもかわいそうで、みんなで地蔵さんをつくつて祀ったとも云われている。

②0 橋番地蔵 (京橋の地蔵) 灘町一丁目、立町二丁目 お許し祈願



京橋の袂には、かつて刑場があった。当時の罪人はねここで百叩きの刑を受けた後、お地蔵さんに泣いてお詫びして帰ったという。ひとつばし自転車店の前にある。由来はわからないが、墓石のような印象である。祭りが近づくと灘町と立町の間で地蔵騒動があったようだ。

②1 青石地蔵 (吉祥院の青石地蔵、吉祥院地蔵) 灘町二丁目東 (吉祥院) 健康祈願



吉祥院は、旧名を極楽寺一乗房といい、真言宗御室派の総本山仁和寺の末寺として千年以上の由緒を持っている。本尊は尺八寸(55センチ)の観音像。重文級の折り紙つき。お大師さんもあるし、弁天さん、大きな石象の観音さんも有名で、覚証院から合祀された秘仏帝釈天庚申像も祀られている。青石地蔵は、嘉永五年鹿島家の献金によって米子城小天守の石垣を修理するため、陰田の石切り場から採石した折り、素性の良い青石が出たので、石垣の石にしてはもったいないと吉祥院に寄進された石を地蔵さんに刻んだと云われている。本堂脇にあり菅笠が印象的。

その他の地藏



塩町地藏 (塩町大師堂)
塩町



寺町地藏 (北向き地藏)
尾高町 開運祈願



福蔵院六地藏
寺町 幸福祈願



瑞仙寺の六地藏
寺町 若返り祈願



安国寺の六地藏
寺町 平和祈願



法蔵寺の地藏 (味噌なめ地藏)
寺町 イボとり祈願



心光寺の地藏
寺町



与太郎地藏
立町1丁目



みなと地藏
灘町二丁目 児護祈願



清洞寺岩地藏西町
平和祈願



城山大師の地藏
久米町

その他に、
 総泉寺の味噌なめ地藏 (愛宕町)
 木毛の地藏 (富士見町)
 廃寺跡の地藏 (博労町三丁目)
 光西寺の地藏 (博労町一丁目)
 水雷の水子地藏 (久米町)
 了春寺の地藏 (博労町二丁目)
 法城寺の地藏 (博労町二丁目)
 などがある。

お地蔵さん札打ち行とお地蔵さん巡りの由来

札打ちと云うのは、身内に不幸があったとき、霊を慰め、浄土に着かれるまでお地蔵さんにお守りいただくように祈るため、7日ごとに札を打ち、おしまいの四十九日目には赤札を貼り法要を行うという風習です。加茂川沿いのお地蔵さんや寺町のお寺の六地蔵さんに札を順番に貼って歩く家族づれをよく見かけます。これは、伯耆、出雲の風習で、全国にも珍しい習慣だそうです。

また、加茂川の橋のたもとのお地蔵さんは、人々の安全と子どもの成長を護ってくださいと信仰されています。町の人たちは、いろいろの願いをかけた、また亡くなったりした身内のものの冥福を祈ってお札を貼るわけです。札打ちには観音さんと地蔵さんがあり、貼るお札も違うので気をつけましょう。

祝日本遺産!

「地蔵信仰が育んだ日本最大の大山牛馬市」

平成28年4月には、加茂川地蔵と日本の地蔵信仰発祥の地大山との関係性が評価され、その構成文化財として日本遺産に認定されました。

日本遺産への認定を契機に、行政でも文化財指定や観光振興の素材として活かしているという動きも出てまいりました。実行委員会としましても、この好機を逃すことなく歴史と伝統誇る市民の夏まつりとして発展・定着するよう取り組んでいきたいと思っております。

米子加茂川地蔵について

米子三十六地蔵

米子人は信心深いと昔から言われ、その為、米子は守られ火事が少ないと言われる。屋根付きの祠堂を建てて三十六の地蔵尊堂を奉納したのが、浪速の宮大工『彦祖』であった。彦祖は伊兵衛とも呼ばれた。出雲国の日御碕神社の造営に下り、その帰途米子に逗留中に子供が出来た為米子に永住を決め大工頭を務め、その間神社仏閣の造営を手掛けたといわれている。彦祖は明和3年(1766年)永年勤めた大工頭の職を辞した。彦祖は、子どもの水死したのを憐れみ、36地蔵の造立を発願して瓦葺の祠堂を建ててご詠歌も作ったといわれている。(樵擢集より) [亀尾八州雄氏]

地蔵盆

米子は地蔵盆が盛んである。旧加茂川筋を中心に8月23日の夜、子どもたちが地蔵に花や菓子を備え、提灯に灯を入れて楽しいひと時を歩過す。近年は加茂川まつりと併せて行われ、初秋の風物詩となっている。地蔵盆は本来24日であるが、前夜祭を行うのが一般的である。米子の地蔵盆が始まったのは天明の頃(18世紀後半)で、京都の宮大工彦祖が京風の地蔵祭りを広めたといわれるが、山陰海岸の漁村に今も行なわれている地蔵盆は京都・琵琶湖沿岸の地蔵信仰が越前・若狭地方から海路伝わったと考えられ米子もそのうちの一つである。

我が国の地蔵祭りが24日なのは、中国敦煌石窟で発見された『地蔵菩薩十齋日』によると『24日は太山府君[たいしゃんふくん]のもと、地蔵菩薩を念ずれば、ざんしゃく地獄に墮ちず、持齋すれば罪一千劫[ごう]を除く』ということに由来する。

23日は彼岸の中日でその翌日が陰の日の初日、すなわち冥界の入り口に当たり、地蔵常在の日である。米子の人々は旧加茂川を現世と冥界の間に横たわる三途の川に見立て、その川岸に地蔵を祭り、前世利益と来世の救済を祈ったのである。(杉本良巳氏)

○キャンドルナイト in 加茂川

加茂川の両岸にキャンドルを並べる環境浄化イベントで、幻想的な夜の加茂川を演出しています。



○加茂川夕涼み遊覧

遊覧船に乗り、夕暮れの加茂川・中海を周遊する人気のイベントです。



○加茂川まつり写真コンテスト

加茂川まつりの風景を一枚の写真で後世に伝えていくことを目的に平成28年度から始まった新しい行事です。

(参考図書) 加茂川地蔵縁起 (亀尾八州雄氏著)、米子加茂川地蔵さんめぐり (笑い通り協議会)、加茂川地蔵笑い庵まち歩きマップ ((株)笑い庵)、加茂川堀・寺町界限のお地蔵さん (加茂川寺町周辺のまちづくりを進める会) 等 (取材協力) 各自治会長、笑い会、涼善寺、吉祥院、飛田材木店、新日本海新聞社 ほか

発行

加茂川まつり実行委員会

加茂川まつり35周年記念誌編集委員会

住所 米子市岩倉町76番地
(長田茶店岩倉町本店)

連絡先 TEL 090-4898-2595

